

してその生活史を研究した。果胞子の発芽体は生長して囊果体と同じ四分胞子体になつた。その四分胞子体が成熟して四分胞子を放出した。その四分胞子が発芽して囊果体および四分胞子体の幼体と同じものに生長した。このことから、本種の生活史はイトグサ型であることが明らかにされた。本種の果胞子の大きさは(45)-53-55-(58) $\mu$ で四分胞子(30-42 $\mu$ )より大きかった。さらに四分胞子および果胞子の発芽体は多層盤状体となりその多層部より直立体が発出生長した。

○ハイスグリ本州中部で発見 (杉本順一) Jun-ichi SUGIMOTO: *Ribes procumbens* Pallas newly found in middle Honshu, Japan

栃木市の古瀬義氏から、山梨県の北岳中腹において1967年7月21日に採集した、花のついたスグリ属の良い標本を頂いた。日本で未知のものらしいので、調べたところ、東北アジア大陸とサハリンに分布するハイスグリ *Ribes procumbens* Pallas であることが判明した。いくつかの文献の記載文を当ってみると、著者によって少しづつの形態上の相違があるが、この相違は同一種内の変異の範囲内のものであると思う。最も信頼のおける文献の一つに中井博士の朝鮮森林植物編15ニキノシタ科がある。この標本をその記載文と図とに対照してみると、大体の形態は一致する。葉の表面に毛がないこと、花序が長いことの違いがあるだけで、明かに同一種と断定できる。参考のため古瀬氏の標本の形を記しておく。

茎は細長く這い、枝はあまり出ない。3年目の部分は褐紫色、2年目の部分は少し稜角があり、外皮がはげやすい。当年の枝は無毛で、全体に刺は全くない。葉は短枝の先に4~6枚づつ集つてつく。葉柄は長さ2~4cmで基部の辺縁に長毛を列生する。上端に微毛あるも中部は無毛。葉身は腎形で心脚、径4~6.5cm、3~5浅裂する。裂片は圧扁された広三角形で、裂片間の巻入も浅い。鈍鋸歯がある。表面は無毛で腺点もない。裏面は腺点を欠き、ただ諸脈上に細毛を散生する。花芽は枝に側生し1個の総状花序を斜上ないし横出し、長さ4~4.5cm、約8~10花つく。中軸と総梗部は細毛がある。苞は宿存性で長さ3mm、小花梗は長さ4mm、微毛がある。花は両性淡黄緑色で径4~4.5mm。萼片は広円形で隣同士相接している。子房近くまで切れて各萼片は平開する。花弁は小形倒卵形、雄蕊も花弁と同長ぐらい。花柱は2浅裂する。子房部は腺毛がない。この標本には果実がない。

*Ribes procumbens* Pallas, Fl. Ross. 1-2: 35, t. 65 (1788).

Hab. Honshu: Prov. Kai, Mt. Kitadake (Y. Furuse, July 21, 1967, no. 168).

Distr. Amur, Dauria, Manchuria, N. Korea, Sachalin & Middle Honshu.

(静岡市 [REDACTED])